ジェシーの背骨

eimi yamada

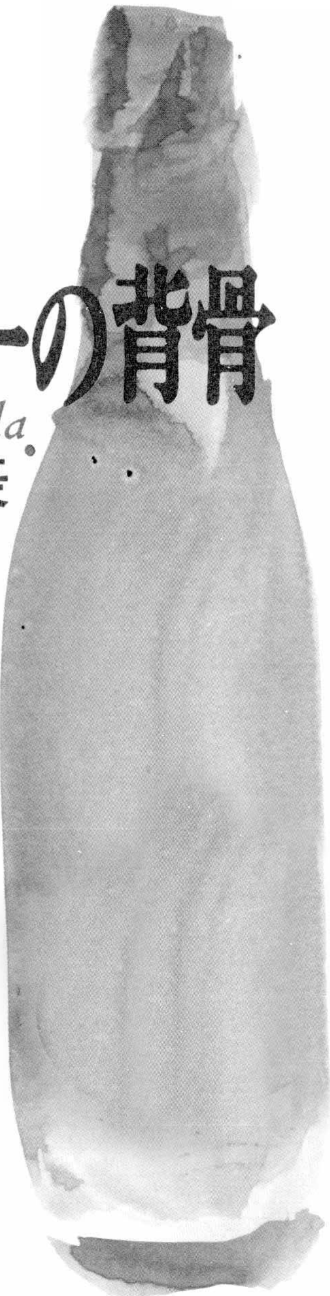
山田詠美

ジェシーの背骨

eimi yamada

山田詠美

河出書房新社



山田詠美（やまだえいみ）
昭和三十四年、東京生まれ。明治大学文学部中退。「ベッドタイムアイズ」で昭和六〇年度（第二十二回）文藝賞受賞、同作品で第九十四回芥川賞候補。他に『指の戯れ』（河出書房新社刊）がある。

ジェシーの背骨

昭和六十一年七月二十日　初版発行
昭和六十一年八月三十日　再版発行

著　者　山田詠美

発行者　清水　勝

発行所　株式会社　河出書房新社
東京都渋谷区千駄ヶ谷二―三二―二
電話　四〇四―一二〇一（営業）
　　　四〇四―八六一一（編集）
振替口座（東京）〇―一〇八〇二

印刷　大日本印刷株式会社
製本　小高製本工業株式会社

©1986 Printed in Japan
定価はカバー・帯に表示してあります
ISBN 4―309―00440―7

ジェシーの背骨

装幀・菊地信義
装画・宮本静江

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

I

「彼女、可愛いとは言えないね。まあまあ（ソウソウ）ってとこじゃない？」

これが、これから数カ月に亙ってココを悩ませることになる十一歳の悪魔の彼女に対する最初の言葉である。ココはいり卵をつつく悪魔の顔を嫌な予感に包まれながらながめていた。

リックはすっかり御機嫌である。朝からグラスにジンを注ぎ、はしゃいでいる。ココは昨夜の狂乱のため、酒を見ただけで吐き気をもよおし、大きな水差しを目の前に置いて氷水を飲み続けた。

「彼女の顔、見てみろよ。愛らしいなあ。キスせずにゃあいられねえよ。体(ボディ)はとびきりセクシーな爆弾で、抱きしめずにはいられねえ」

リックはそう言ってココに口づける。酒の臭いが彼女の喉を刺激し、彼女はやっとの想いで吐き気を飲み込んだ。

そして、その悪魔、ジェシーはさも軽蔑したように父親を見て、音をたててフォークを置いた。つけ合わせた生野菜には一切口をつけていない。ジェシーは立ち上った。

「覚えていてね。僕はオクラ以外の野菜を憎んでいるんだ」

ココが返事を忘れて唖然としていると、彼はジャケットを手にし、出かける準備をした。

「ダディ、昼食(ランチ)はアレックスの家で食べるから心配しないでね。楽しん

でよ」
ドアが閉まり、ココはリックと二人きりでキッチンに残される。彼女はほっとした想いでリックを見詰める。突然リックは、はにかんだように下を向き、ジンを飲み干すと立ち上がり別の部屋に行く。ココは甘い気持になり寝室に行き、服を脱ぐ。小さなショーツ一枚になりベッドに滑り込む。リックもすぐに自分の横に来て、昨夜の熱い続きを再現することだろう。初めての男の家に泊った時、この瞬間がココにとっては一番楽しい。そして、ラブアフェアの醍醐味でもある。酒と快楽から醒めた目で、お互いがこれからもパートナーとしてやっていけるかどうかを品定めするのである。性的な好奇心から来る熱情から解放された後なので、やっと純粋に肉体的かつ具体的に相手の体を味わう事が出来るので

ある。
ココは鏡を見る。そして満足気に髪をかき上げる。化粧は剝げ落ちている。そして彼女は剝げ落ちた化粧の間から覗く素顔が何にもまして自分を魅力的に見せる年齢を意識する。彼女は枕に顔を埋ずめる。枕には昨夜の口紅が付着して彼女のほおをもう一度染める。
彼女は自分が一番美しく見える姿勢をシーツの隙間に造り、リックを待った。
けれど、彼はいつになっても彼女の許にはやって来ない。彼女の姿勢は決して自然なものではなかったので、足の筋肉が痛み出す。待ちくたびれたココは隣の部屋をこっそりと覗く。なんと、リックは酒を飲みながら洗濯をしていた。彼女は溜息をついた。彼女は自分を恋愛のプロフ

ェッショナルだと自認していたが、彼女の恋愛教本の中に、メイクラブの翌朝、洗濯をする男の心理についての説明事項はなかった。彼女が初めての夜を過ごした男は、翌朝、朝食をとった後、再び彼女をベッドに引きずり込み、彼女の目を見詰めながら、彼女に二人がここにいる必然性を、俗なそれでいて途方もなく魅力的な言葉で囁くことになっていた。

「どうしたの？」

彼女がリックの背後から声をかけると、彼は大声で叫び、持っていたグラスを落とした。

「私、あなたをこわがらせたかしら」

「う、うん、まあ…」

「洗濯が好きなの？」割れたグラスの欠片を拾いながら彼女は言った。

「ああ…　まあね…」
リックは言葉に詰まり、自動洗濯機だというのに濡れたシャツをしぼり始めた。
この人、恥かしがっているのかしら？　幾つって言ったっけ。あんな大きな息子がいるんだから三十の半ばを越えてる筈だわ。どうなってるの？　もうやっちゃった仲なのに、照れるなんて世話のやける。
「来て」
ココは彼の手をつかみ、寝室へと促した。彼女がベッドに滑り込むと彼は窓のブラインドを堅く閉ざして服を脱ぎ始めた。
彼の手は洗濯機の水のせいで冷たく湿っていた。その手が彼女の首筋を撫でる時、彼女は石鹸（ソープ）の匂いを嗅いだように思う。外の空気で冷たく

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

なっていたリックの体が彼女の体温を吸い始めた時、彼はやっと彼女の恋愛教本にある正しい翌朝の過ごし方を実行し始めた。

昨夜、リックとココは初めて出会った。クラブで友人達と馬鹿騒ぎをする中で、彼らはとても真剣に見詰め合い、静かに言葉を交した。彼はココを嘗めちぎり、それは彼女にとって慣れたものであったので、それ程の感動を呼び起さなかったが、彼がココを置いてレストルームに行く時、誰かが彼女をさらってしまわないかと後ろを振り返り、おどおどと小走りをする様子が彼女の気に入った。そして、素早く用を足して戻って来た時、彼女が一人でリックの戻るのを待っていたのを見届けて彼は有頂天になった。

酔いは彼の緊張をといた。ココは、といえば、彼女はいつもと変わり

なかった。こういった出会いは彼女にとって日常茶飯事だったし、パーティの終わりにどうやって彼が誘いをかけるかという事に期待感を持つことすらあれ、彼の言葉に胸を震わせる事はなかった。彼女は、ただ、いつものように新しい情事が始まりつつあるのを楽しんでいた。

彼はよく酒を飲んだ。そして、彼女もそれにつられてグラスを口に運んだ。彼女は、これから二人きりの夜を過ごすであろう相手がその資格を持っているか否かの基礎的な必要事項を、冗談や欲望をさそう言葉などにまじえて、上手に質問した。

彼は結婚していなかった。ココは結婚している男と関係を持つ気は全くなかった。それは、その男の家庭を壊したくないという気持より、他の女の体によって常に使い古されている男の体を抱く気がないというこ

とからだった。結婚している男の体からは惰性のセックスの匂いがした。彼女だけしか愛さないという既婚者の言葉程、彼女の肌を嫌悪させ、粟立たせるものはなかった。その点、リックは合格者だった。

リックは彼女の好意を感じとり、益々、有頂天になった。彼の単純な明るさは、今、この時、魅力的な女を独り占めしている嬉しさを充分に表現し、それはココを気持良くさせた。

彼は時折、ココの体をくすぐり、彼女が子供のように歓声を上げると、僕の家に来たら君の全身を舌でくすぐってあげる、などと言い、それは彼の女の体の愛し方を連想させ、彼女は、この男と今夜ベッドを共にするだろう確信を持った。彼は非常に陽気だった。

けれど彼は自分の年齢を誤魔化して若く言い、それは初対面のココに

も明らかに嘘だと解ったのでその事に彼女は少し鼻白んだ。彼女は女のような事をするリックに少し失望し、寝るのはもう少し後でよいと思い直した。彼女は無駄をしたくなかった。今までの経験から、味の良い情事以外は何の価値もないと思っていたから。

彼が、当然という感じで、ここを出て彼の部屋に行こうと言った時、彼女はそれを次にまわしたいと伝えた。彼はショックで打ちのめされた表情になり下を向いた。その泣き出しそうな様子は彼女をおおいに慌てさせた。

彼女はリックを慰めながら、自分は淑女だから初対面の男と泊まる事は出来ないのだと伝えた。彼女は自分の言葉のいい加減さに舌を出したい気持だったが、リックは納得したようだった。

リックは観念したように、性的な話題は避け、自分の息子のジェシーの話をし始めた。

息子は世界で一番ハンサムな子供であること。そして、父親の自分と友人関係にあることなどを。うなだれながら、息子について語り始めた。

それは、とてもココの興味をそそった。彼女は子供の知り合いがいなかった。男に関する知識は、ほぼ完璧だったが、子供の男に関してのことは、まったく知らなかった。彼女の好奇心は抑えがきかなくなった。彼女はどうしても、その子供が見たくなり、そのためには、ついでとしてリックと一夜を共にするのも苦ではなくなっていた。

彼女が、さあ、あなたの家へ行きましょうと立ち上がった時、リックは信じられない事が起ったというように、口を開いたまま彼女を見詰め

ていた。一瞬の間があり、彼がココに飛び付いて、礼を言った時、彼はココの心の動きを知るよしもなかった。

ドアを開けて、家に入るや否やココは、息子が見たいと言い出した。リックは喜んで息子の寝室のドアを音を立てないように開け、彼女を招き寄せた。

「なっ、ハンサムだろう」

彼女は何と答えてよいのか解らなかった。子供は東洋人の顔をしていた。それも猿の顔としか見えない。彼女は中途半端にリックに言葉を返しながら、失望した。もちろん、猿に似ているなどとは言えなかった。

飲み物を用意するリックの手つきは完全に酔っ払っており、ココは呆然とそれを見ていた。彼女は深く失望していた。しかし、予期していな

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com